

様式第 3 号（別記関係）

会 議 記 録 表 紙

会議名称	令和 6 年度第 2 回北本市総合振興計画審議会
開会及び 閉会日時	令和 6 年 12 月 23 日（月）午後 3 時から午後 5 時 20 分まで
開催場所	会議室 3－B
議長氏名	大下茂
出席委員 等氏名	大下茂 堂本泰章 森田満理子 吉野道子 黒川範子 橋本裕子 坂田直人 加藤慎二 高松隆士 深谷忍 秋葉清 熊木庄吾 横山信 田上克義 槇拓治
欠席委員 等氏名	地挽昭則
説明者の 職氏名	政策推進課長 福島洋輔 政策推進課 政策推進担当主席主幹 高橋弘
事務局職員 の職氏名	政策推進課課長 福島洋輔 同課 政策推進担当主席主幹 高橋弘 同担当主任 小峯明人 同担当主任 國友裕太 同担当主事 齋藤優衣美 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 野口志朗 同社 新橋明奈

会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 事 (1) 第六次北本市総合振興計画策定に係る基礎調査について 【報告事項】 (2) 第六次北本市総合振興計画策定に係る市民意識調査について【報告事項】 (3) 人口ビジョン（素案）について【報告事項】 (4) 第六次北本市総合振興計画基本構想（素案）について 4 そ の 他 5 閉 会
配布資料	・ 次第 ・ 資料 1 第六次北本市総合振興計画策定に係る基礎調査報告書（案） ・ 資料 2 第六次北本市総合振興計画策定に係る市民意識調査報告書（案） ・ 資料 3 人口ビジョン（素案） ・ 資料 4 第六次北本市総合振興計画基本構想（素案） ・ 参考資料 1 アンケート結果からみる市民意識 ・ 参考資料 2 「きたもとの未来」に対する意見募集

発 言 者	発 言 内 容
福島課長	1 開会 本日はお忙しいところ御出席いただき、誠にありがとうございます。 ただいまより「令和6年度第2回北本市総合振興計画審議会」を開会いたします。 本審議会は北本市総合振興計画審議会規則第5条第2項の規定により、過半数の出席が必要となります。 本日は委員16名中15名が出席されていますので、会議が成立することを御報告いたします。 なお、地挽委員からは事前に欠席の御連絡をいただいております。 また、本会議傍聴の希望はありませんでしたので、その旨御報告いたします。
福島課長	2 あいさつ それでは、開会にあたりまして、大下会長より御挨拶をお願いいたします。
大下会長	【大下会長挨拶】
福島課長	3 議事 北本市総合振興計画審議会規則第5条第1項の規定に基づき、議長を大下会長にお願いします。 (1)第六次北本市総合振興計画策定に係る基礎調査について【報告事項】

大下議長	それでは議事に入ります。議事は大きく4点です。まず議事(1)第六次北本市総合振興計画策定に係る基礎調査について、事務局より説明をお願いします。
高橋主席主幹	【資料1に基づき説明】
大下議長	資料1の34ページを見れば類似団体、同じ人口規模、埼玉県その他都市と比較して「強いところ・弱いところ」が、一目瞭然でわかるということですか。
高橋主席主幹	そのとおりです。
大下議長	このページの11項目については、今年度は基本構想、次年度以降は基本計画の大きな項目とリンクしているということで考えてよろしいですか。現状なので、特に御意見などが無いと思いますが、今後の政策の在り方として多くの場合2つの選択が採られます。1つは、強みを強めるという考え方と、もう1つは、弱い部分を補填していきながら押し上げていくということです。例えば都市形成では、住宅の耐震化率について比較すると低いため、防災に備えて耐震化率を上げていくような何らかの手を加えていく指標としてみていくといったことが考えられます。
堂本委員	それぞれがなぜ強みなのか、なぜ弱みなのかといった分析をされていますか。
高橋主席主幹	強み弱みについては、冒頭に挙げた近隣市、同規模自治体との比較において数字が良いのか、悪いのかといった傾向から出しています。

堂本委員	理由についての分析はされていませんか。
高橋主席主幹	例えば 20 ページ「7.安全」(1) 犯罪発生件数について、指標の数字が小さいほうが良い指標といった設定をしています。その数字に基づいて判断し、強み・弱みという表し方に反映させています。分析というより客観的なデータとして出した資料です。
堂本委員	データを踏まえて我々はどう見れば良いのかについて、お示しいただきたいです。これだけでは理解するのに時間がかかるのではないかと印象です。
大下議長	おそらく現時点では、総務省が決めているタイプと似たところ、つまり、人口規模が同じところと単純に比較をただけであり、なぜ強み弱みとなっているのかについての分析までは至っていないと思います。実際に各項目に応じた基本計画を策定する段階に至るまでの間には、担当課の方々と原因などについても詰めていき、それを改善するのか、さらに伸ばすのかについて考えた上での施策をお願いするといったことが予想されます。例えば、都市形成の「住宅の耐震化率が低い」という点は、おそらく昭和 40、50 年代に人口が伸びたときに住宅を建てた方たちのお宅が、今の耐震基準に合っていないといったことが考えられます。既存の不適格な耐震構造があるため、改善していくということですが、ただ、そこにお住まいの方たちは高齢になっているので、そういった点をどう進めていくべきか等の防災的な面での具体的な施策が打ち出されてくるのではないかと考えています。
堂本委員	議長がおっしゃったようなことですが、分析がないと、意見の言いようがないと感じました。

大下議長	事務局としても全ての原因については、わからないと思います。専門の各部署に確認を取るかたちになると思います。基本計画の検討の際に、これに沿ったかたちで進めるといった1つの目安として選んだということよろしいでしょうか。
福島課長	御意見のとおりで、基礎調査に関しては確認できる最新の状況を掲載しています。各部署の個別計画など現状を確認したうえで、来年度に策定予定の基本計画にどう生かしていくかという資料になるので、現状、その原因の分析はできていません。
深谷委員	22ページの(1)健康寿命についてです。例えば平成25年度男性が17.31年となっていますが、これは65歳以上の方が、下部の注釈にある「要介護2以上」にならず要介護1までにおさまっているため「健康寿命」として算出しているのですか。
高橋主席主幹	お見込みのとおりです。一般的に「65歳健康寿命」と呼ばれているものを持ってきました。
深谷委員	これは令和4年度だと男性65歳の方が、更に19年健康に生活していると理解してよろしいですか。
高橋主席主幹	その通りです。健康の定義として、これが絶対的な定義ではなく、あくまで脚注の定義で算出した数字です。
深谷委員	わかりました。
秋葉委員	16ページの自治会加入率について、数字が出ていない箇所

	に関しては不明ということですか。
ジャパン総研 野口	把握できなかったため、この様に表示しています。
大下議長	令和３年以外だと数値が出ていますか。
ジャパン総研 野口	確認します。
大下議長	例えば、近いところの令和２年、令和４年の数値を入れても良いかと思います。あるいは、令和３年に調査を実施していないため「-」にしているといった注釈を付けても良いかもしれません。まとめるときに加えていただければと思います。
田上委員	31 ページ、ふるさと納税についてです。入ってくるお金についてしか記載されていないのですが、出ていくお金の財政への圧迫具合などわかりますか。
福島課長	こちらに出ていませんが、市外に流出している金額もあります。プラスにはなっている状況ですが、ふるさと納税の流出金額も年々増えている状況にあります。
	(2)第六次北本市総合振興計画策定に係る市民意識調査について 【報告事項】
大下議長	それでは、次の議事に移ります。議事(2)第六次北本市総合振興計画策定に係る市民意識調査について、事務局より説明をお願いします。

高橋主席主幹	【資料 2 に基づき説明】
大下議長	キーワードとしては「活用する」とありましたが、例えば 51 ページにある施策別の重要度及び満足度の分布などは、今後基本計画を定めるときの判断材料に使われるという予定ですか。
高橋主席主幹	基本構想については、直接的につながる部分として問 12、問 13 を挙げました。それ以外の項目についても基本計画を考える際に、来年度から庁内ワーキンググループを立ち上げて、各分野からグループリーダー級を集めて検討します。その際に、検討する材料として考えております。
大下議長	ここで聞くだけという訳ではないということでした。また、回答率が 50% 超えています。私はいくつかの自治体の総合計画に携わっていますが、50% 超えの回答率は非常に高い数値であると思います。この数値は、今回だけでしょうか。過年度まで実施されたものと比較していかがですか。
高橋主席主幹	前回の総合振興計画においても、回答率は概ね 50% は超えています。また本市で、行政評価の進捗を図る目的として「まちづくり市民アンケート」を毎年実施しています。こちらでも回答率は概ね 50% といったところです。市からのアンケート調査について委託業者が実施しても、大体 40% か、それを下回る結果だと聞いています。そのことを踏まえると本市は、市民の市政への関心が高いのではないかと推察しています。
大下議長	私もそれを痛切に感じました。市民の方々の反応というか、意識の高さが表れていると思います。自治会加入の比率

	についても、低さはそれほどでもないと思います。他地域では、壊滅的なところもあります。この調査そのものについて、誰にどのようにという内容が記載されていると思います。現在の人口比率、人口ピラミッドに応じて男女比率が割り振られています。実際に戻ってきた回答については 54 ページにありますが、年代ごとに何票送ったのかについて記載があれば、各年代の回収率もわかると思います。回答率として括弧書きでも構わないので載せていただけると、全体では 50% でしたが、年齢層の高い方々は非常に高く、若い方々は低い、または子育て真っ只中の方々が低いといった具体的な部分がわかると思いますので、この 54 ページに、各年代の割合を加えていただきたいと思います。
ジャパン総研 野口	今の御質問について答えられる範囲でお伝えしますと、実際の年齢構成比率と回答者の中での割合とを比べて差が大きかったのが 18 歳以上 29 歳以下で、回答者の中では 5.6% でしたが実際の年齢構成比率としては 10% 強となっています。逆に実際の年齢構成比率より高く出たのは 70～74 歳の方で、年齢構成上は 10% 弱のところ回答上の割合は 15.5% でした。全体を見ても、やや高齢寄りの回答と言えるかと思います。ただ、市民全体の意識が高いとは言える状況で、若年層の方も比較的回答が集まったという感覚はあります。
大下議長	若い人達が、不慣れであるということもあると思います。それが、どう使われるかわからない部分があるかもしれません。そういった部分が左右していることも確かだと思います。インターネットでの回答も加わったので、回答率はそれほど低くならず済んだのではないかと推測できます。実際に政策を打つときに、51 ページが一番よく使われるデータです。市民の方々の意識として、重要・満足だと思っているか

堂本委員	どうか。人間の感覚として、右上の方が良いと捉えがちですが、大切なのは左上です。重要度が高いが満足度が低いもの、これをより積極的に取り組んでいかないとはいけません。右と左を逆にしたほうが、人間の感覚としてピンとくるように思います。見せ方について工夫が必要だと思います。 38 ページの「住みにくい」と回答した人の理由として交通の利便性とありますが、51 ページの部分でいくと、これと連動する施策というのは、どういったものになりますか。交通の利便性と道路の整備とは違うと思います。それは、施策としてどこに入りますか。わかりづらかったので確認しました。
ジャパン総研 野口	報告書上では示されていないのですが、「4-1 豊かな住環境の整備」の中に交通関係の内容が含まれており、アンケート上ではその旨の説明が入っていました。
大下議長	そのあたりも最終的にまとめる際に、アンケートそのものの原票を付けたらわかりやすいのではないかと思います。
黒川委員	51 ページについてですが「市民参画と協働の充実」の重要度が、アンケートによるとあまり高くないということです。一方で自治会の加入率とか、アンケートの回収率を見ると市政への関心は「ある」と捉えられます。そのギャップを、どう理解したら良いでしょうか。「住みやすいまちを自分たちでつくろう」という意識が大切だと思います。よって行政任せだけではないという意味で「市民参画と協働の充実」の重要度が高くなってほしいと思っています。「自分たちのまちは、自分たちで良くしていく」といった意識をつくり上げていきたいという思いで、私はこの表を見ていました。

大下議長	御意見として賜りたいと思います。私の解釈だと、最初はそういうものがあって、通り過ぎると当たり前になってしまいます。「自分たちのことは、自分たちがやらなければならない」ということが当たり前になっているかもしれないため、改めて重要性が高いとはならない可能性もあるかもしれません。かなり好意的な解釈かもしれませんが、「成熟化された協働」といったゾーンに入っているとありがたいと思います。いろいろな解釈があると思います。これらをもとに庁内で「審議会からこういう意見があった」と伝えていただきたいです。そうすると議論になった時に、より明確になると思います。次年度基本計画を検討する具体的な議論になった際、「重要度・満足度がどうだったか」を確認する参考の資料として保存していただけるとありがたいと思います。
榎委員	54 ページの年齢層についてです。18～29 歳が 5.6%で、これが低いか、高いかといった議論でしたが、これからのまちづくりを考えると、若者たちの意見をもう少し丁寧に集める必要があると思います。そうすることが政策として生きてくると思います。実際に若者の意見を聞いたところ、目に見えるものであっても、見えないものであっても何かメリットが感じられること、また、インターネットなどでできるものだと取り組みやすいといった意見でした。参考になればと思います。
高橋主席主幹	今後、アンケート実施の際には考慮していきたいです。また今回、市民意識調査ということでアンケートを実施しましたが、御指摘のとおり若年層の意見を聞くということで、別途二次元コードを活用したアンケートを行いました。結果が参考資料 2 の通りとなっております。年代に関しても、保育所・幼稚園、小中学校、高校生に市で行われているイベント

	などで実際に調査票をお渡しして回答いただいた結果をまとめています。質問事項もシンプルに「北本の自慢できるところ」「これからのまちづくりで重要だと思うこと」「北本市のイメージ」「未来のきたもと」です。こういったものを加味して両方の意見を踏まえて基本構想の素案の作成を進めている状況です。
加藤委員	52 ページの施策の中身を教えてください。上の部分にある「1－1 子育て支援の充実」と、一番下にある「7－2 めざせ日本一、子育て応援都市」とありますが、満足度には差があるようです。施策の中身の違いについて教えてください。
大下議長	これは現行計画の一覧です。第5次総合振興計画後期計画に記載されているものが、ここに載っています。
加藤委員	内容について教えてください。
高橋主席主幹	現行計画においては、政策7がリーディングプロジェクトとして横断的な取組として整理しています。策定時に人口減少に対応したリーディングプロジェクトとして整理しています。その中に人口減少の改善に向けた項目として「移住・定住・交流促進」「子育て応援、めざせ子育て応援都市日本一」を掲げており、いろいろな分野にまたがっています。通常の行政範囲を政策1～6でカバーしていますが、更にそれに横串を入れているのが政策7となりますので、一見すると重複して見えるのかもしれませんが。
加藤委員	子育て支援について、保育所の待機児童数がここ数年突出して高くなっているように見受けられましたが、これはどう

	いった理由がありますか。
高橋主席主幹	待機児童数については、全国的に保育士の確保に苦慮している状況です。また、どこも人材の取り合いのような状況でもあるため、本市でもいろいろと検討している段階です。
ジャパン総研 野口	御質問いただいた施策の満足度の差についてですが、「１－１」と「７－２」では調査票上の説明においてあまり違いがなく、現行計画の施策自体の中身も大きくは違いません。おそらく、「７－２」の方は名称として「めざせ日本一」と掲げているのもあり、それに対して「満足」とは答えづらい心理が働いたのではないかと考えています。
加藤委員	中身は、ほぼ一緒ということですか。
ジャパン総研 野口	お見込みのとおりです。
大下議長	それでは、市民意識調査の報告は今日だけではなく、基本計画策定時にはここに戻ってくると思いますので、次年度以降にこのデータを活用いただけたらと思います。当然事務局には、各担当セクションに、このデータを踏まえて施策立案の際にしっかりと伝えてもらいたいと考えています。
	(3)人口ビジョン（素案）について【報告事項】
大下議長	続きまして、議事(3)人口ビジョン（素案）について、事務局より説明をお願いします。
高橋主席主幹	【資料３に基づき、説明】

大下議長	18 ページを見ると、かなり衝撃的です。つぼ型ではなく、逆三角形です。2050 年頃になると若い人たちが、ほとんどいなくて、後期高齢者の方々が増えてくるといった推計でした。実際問題、今回の総合振興計画の計画範囲よりも先の年度になります。第六次総合振興計画の目標年度はいつですか。
高橋主席主幹	西暦 2035 年度であり、期間は令和 8 年度から令和 17 年度までです。
大下議長	次の次の計画、第八次計画の時にはこうなってくるといったところです。
高橋主席主幹	当然推計なので変わってくる可能性も考えられます。2050 年までとしている理由としては、国で公表している国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠したということです。その推計における数値を参照して、本市の近年の傾向である社会増を加味して推計しなおしたものが今回の推計です。
大下議長	政策を打てば変わる可能性がある、そしてまた変わるように持っていかななくてはいけないといったことです。今のまま何もしなければ、こういった傾向になるため、今手を打たないといけないと御理解いただきたいです。将来の方向性として 21 ページを想定したいということです。1 点目、ヒトの面として、少なくとも定住人口を維持しつつ交流人口、あるいは関係人口と言われている人たちも増やしていく手を打っていかななくてはなりません。2 点目、モノの面として、地域資源を活用したまちづくりを、市民協働の力も借りながら進めていかななくてはいけないといった話です。3 点目は、カネの面として、持続可能な行財政運営が伴っていかなければなら

	ないため、そのあたりは確実に、堅実に進めていくことで、将来の方向性が見えてくると思います。これらは、基本構想をつくるうえでの課題になっていくと思います。
加藤委員	相対的に人口減少は緩やかだと思います。新型コロナウイルスも一服したので、都心回帰の動きもなきにしもあらずだと考えています。今後社会増を維持していくための施策もあるかと思いますが、幸いにして本市が消滅可能性都市から外れたという話を聞いており、今後の人口の行く末が非常に影響してくると思うため、そういった点についてお聞かせください。
大下議長	判断が難しいと思いますが、可能な範囲でお願いします。
福島課長	東京のマンションの平均価格が1億円を超えているといった話が出ています。よって、どちらかと言えば人口が都心から地方に流れていく傾向は引き続きあると思います。都内では外国人が多くなっている点も背景にあると考えられます。本市に関しては、シティプロモーションに力を入れていて、定住につながるように取り組んでいます。また、これと合わせて交流人口や関係人口を増やすことによって、本市に関わってくれる人を増やすことを引き続き進めていきたいと考えています。実際に第五次北本市総合振興計画では「出生数を維持するのではなく増やすものだ」といった計画が立てられていました。実際にふたを開けてみると、なかなか出生数を維持することすら難しい状況です。これは、日本全体の状況でもあると思います。そういった中で今回、本市として、これからの10年をもっと先の計画への中間点と見据えて、人口維持、関係人口・交流人口の増加、また市にある地域資源をしっかりと活用して魅力あるまちづくりを進めていく、つまり

	市民に本市を好きになってもらって定住してもらおうということです。また、まちづくりを進めていく中で今後財政の状況も厳しくなっていくと思いますが、しっかりと将来を見据え、市として魅力を高めつつも、人口の変化を踏まえたまちづくりを進めていくという方向性を定めています。考え方自体が、前回の総合振興計画策定時と変わっている点を御理解いただければと思います。
大下議長	時代が完全に変わっていますし、おっしゃることは非常にわかりますが、魔法の杖のようなものはないため、いくつかのものを重ね合わせて実現に持っていくセンスの問題だと思います。それは、何でもかんでも手を加えれば良いとなってしまうと足を引っ張るものになり兼ねないので、何が一番効率的なのかということです。そういった話について、来年の基本構想から基本計画に落とし込む段階で、何の一手が引き金になるかを審議会として判断していくことになると考えています。ただ、それが何なのかは、まだわかりませんが。
吉野委員	主婦感覚で申し訳ないですが、人口増の根本は、生まれることであり、その生まれた子がここをふるさととして生活できる環境かということが、絶対的にあるかと思います。今の若者が結婚しない、子どもを生まないと思うところを、どう考えていくかだと思います。良いか悪いかは別として、昔の言葉でいくと「産めよ、育てよ」だと思います。その時代に生まれた自分たちはその感覚なので、人口増といっても、どこを見て増というのか、という点があります。極端に表現すると、隣町から人を連れてきても、近隣の市との関係悪化の原因になりかねません。変な例えで申し訳ないですが、私としては「人口増をどう考えているか」が、なかなか理解できません。それには環境を整える、学校の充実、保育所の充

大下議長	実など全てが必要だと思います。単純ですが、一番簡潔、わかりやすいのではないかと考えます。出て行く方がいる訳なので、それを防ぐ為には交通の利便性など、あらゆる事が限りなく広がっていつてしまいますが、人口の話になった際に結局は、生まれなければ増えないといった単純な考えになってしまいます。 今の御意見は、すごく良い御指摘だったと思います。日本全体の人口増を目指す中で、転入増の視点では県や市の視点で増えることがあっても全体では変化がないことになるため海外からの転入に目を向ける話になり、自然増を目指すには、どうも日本全体としては期待できないという点を受け止めないといけない状況となっております。 もうひとつ別の視点として、人口が減ってきたら地域に活力がなくなるのかという問題ですが、今の人口水準は、明治時代から一気に増えています。日本はこれまで人口が伸びる時代と伸びない時代を過去4回程経験し、今回4度目の人口が伸びない時代を迎えています。歴史人口統計学において言われていますが、過去に人口が伸びなかった時代で暮らしの規模が縮小されたのかと考えるとそうではなく、過去に人口が減ることで私たちは新たな都市をつくる必要がなくなり、既存のものを上手く使う時代になるといわれています。例えば歌舞伎、錦絵、観光などの文化に投資して地域活力を上げていく工夫等がありました。文化を育て上げることで、元気な地域をつくることは可能です。経済規模としては付加価値の部分で生まれてくるものがあります。これらが、資料中にある「交流人口、関係人口の増加」に繋がると思います。本市には縄文時代から人が住んでいたように、住みやすい環境、つまり安全な所だったというわけで、このような地域資源、立派な環境があります。そういった部分を使うことによ
-------------	--

	り付加価値を付けていけば、住んでいる人にもメリットとなり、外からも人が来て、いろいろな活動が生まれることで地域のパワーとなるため、資料の 21 ページの内容につながっていくのではないかと考えていました。人口減少対策として特典などのメリットを与えるといった方法もありますが、未来永劫は続かない考え方です。飴ばかり与えても将来的にはむし歯になり身体に悪いのと一緒に、健全なかたちでの誘致を進めていかななくてはなりません。そのためには、我々委員の意識を持っていくための大切な御指摘をいただいたと受け止めています。
田上委員	北本単独の問題ではなく、県、国での最後の議論のステージになっていると思います。もちろん本市も取り組まなくてはいいませんが、埼玉県も一緒に取り組まないと根本的な解決に向かわないと考えています。
大下議長	一緒にやることで費用が少なくて効果が出るという可能性はあると思います。一緒にやる部分と市としてやる部分があるのでバランスを取って進めるべきだと思います。
福島課長	国、県、市それぞれに役割があるので、その中で何ができるかの視点から、総合振興計画を策定していきたいと考えています。
大下議長	(4)第六次北本市総合振興計画基本構想（素案）について 議事(4)第六次北本市総合振興計画基本構想（素案）について、事務局より説明をお願いします。
高橋主席主幹	【資料 4 に基づき説明】

大下議長	目次をご覧ください、「1 目的と期間」「4 土地利用構想」は前回細かく御指摘をいただき、環境計画についていただいた御意見は、基本計画の際に取り組んでいくということで、前回の決定事項とさせていただきます。残りの「2 基本理念と将来都市像」「3 推計人口」「5 政策の大綱」について、一つずつ決めていきたいと思います。 まず「2 基本理念と将来都市像」について、原案としていくつか提示されていますが、今回決定しなくても構わないということで、これについて御意見をいただければと考えています。私が思うに、将来都市像の中で「緑にかこまれた健康な文化都市」というのは、本市ができてから 50 年ほど堅持されてきたということです。これは、素晴らしいことだと感じました。これに各時代の解釈が加わってきているのだと思います。第六次計画においても「緑、水」など環境をイメージさせる代表的な言葉を使うことにより、我々としてこう解釈して反映させていると答申できればと考えます。今まで守ってきたものを審議会として否定するのは、あまり良くないのではないかとといった面を私は感じていることを一応伝えておきたいと思います。あとは、これに対して忌憚のない御意見をいただければと思います。
黒川委員	個人的な感覚ですが、私は本市に縁もゆかりもなかったのですが、初めて住んだ時に、桜、松の緑が鮮やかで雑木林など一目で好きになりました。そして今も北本に関わらせていただいています。この言葉は、大好きだし大事にしていきたいことと個人的には感じています。
吉野委員	「緑にかこまれた」という表現が、市民にとって1つのキーワードのようになっていて、私は当たり前のようで深く掘り下げていなかったです。

秋葉委員	高崎線沿線の雑木林を自治会で保護しています。住民の意識の中に「雑木林だけではなくてはいけない」というものがあります。高崎線に乗った方によく言われるのが「北本市のあそこだけ緑がある」といった言葉です。それが一番重要な部分だと思います。何かあれば高崎線の北本の雑木林と言われます。そういった部分が「緑にかこまれた健康な文化都市」のイメージなのではと思います。
大下議長	私も熊谷や本庄などに仕事で行く際に、鉄道沿線の景色がそれまで住宅地だったものが、突然雑木林になる地域が北本でした。そしてその先は農地になります。そういった地とこのようなご縁があるとは、ありがたいと思っています。
秋葉委員	あそこを通ると自宅に帰ってきたという気持ちになります。
堂本委員	私自身は、自然環境に関わっている団体のスタッフとして40年近くやっています。皆さんの意見と逆になってしまいましたが、少なくとも私が関わった当初より圧倒的に緑が減ってきています。本当に「緑にかこまれた」と言っているのか疑問です。ただ、文言としては残して良いと思いますが、これに市の職員や市民が甘んじていては、現状だと守れない、危機的状況になってきているという危機意識を持って将来像を描いてほしいと率直に思いました。他市から「北本市は、緑が残っていていいところだ」と言われると、正直答えに困ってしまいます。このタイトルをつくった時点と比べて今では圧倒的に緑の量が少なくなっているという実感を皆さんも持っていると思いますが、それでも他の地域と比較すると雑木林などは、十分誇れると思います。本市に40年近く住んでいる者としては、残念な状況であるということを前提に、御検

橋本委員	討いただければと思います。 私も全く同じことを言おうとしていました。30～40 年前に私が住み始めた頃の雑木林と比べて、今の雑木林のイメージは、やはり緑が減っていると感じます。文言を変える必要はないと思いますが、以前と比較すると減っていることは事実であり、「緑豊かだ」と言っている方も心の中では同じことを感じていると思います。
田上委員	デベロッパーが入っていくのが難しいと思います。北本市の開発基準が厳しくなっていると思います。行政の指導が大事なのではないでしょうか。
森田委員	積極的に緑を守っていく、大事にしていく、宝であるという意見で「緑にかこまれた、健康な文化都市」としており、緑の重要性からきているのではないかと思います。その場所で、どう過ごしてどう体験するかという感情体験が土地に対する気持ちにつながると思います。感情体験が豊かでも、不便な生活やその先の見通しが立たないと、ずっと住むことにはつながらないかもしれませんが、自然といった私たちの手ではどうしようもない物事に対して市で守っていく、または関心のある方たちを呼び込むといった、豊かな感情体験を保証できることは、教育の面から考えてもいろいろな意味で大事だと思いました。また、基本理念についてですが、「協働」という言葉が堅いといった御意見がありましたが、「みんなの力で」「やさしい」という表現ともつながってくると思いました。幼児、小学生、老人など、様々な年齢での生きる喜びというものが重要で、自分が毎日どう生きていくかと考えたときに、ささやかでも生きる希望があったら頑張れると思います。おそらく、みなさんそれぞれ、ちょっと頑張れ

大下議長	る足掛かりというか、サポート、親切ということを求めているかもしれません。案２で「市民の満足度」という言葉が出てきていますが、自分の人生に対する満足度でもあります。市のサービスなどに対する満足度ということだと思いますが、最終的に本人の幸福感が満足度として表れているのではないかと思います。 基本理念は「市民協働」という表現だと、堅いイメージや限られた印象があるため、「みんなの力で築く」としたほうが、わかりやすく幅広く捉えられると思います。また、それに続く言葉は、持続可能などの言葉だと堅苦しくなりそうなので「やさしいまちづくり」といった御意見でした。やさしさも、いろいろな解釈があるので、理念としては案１でよいのではないかと考えますが、決定された訳ではなく、審議会としての意見としてお伝えしたいと思いますが、いかがでしょうか。
黒川委員	そのとおりだと思います。住み続けたい理由として、「やさしいまち」「安心できるまち」といった思いがあるからだと思います。そして「住み続けたい」の前に「やさしい」があるので、私もいいなと思いました。先ほども申したとおり「みんなの力で良くする、築く」ということだと考えるため、案１が良いと思います。
大下議長	決定ではないですが、庁内の検討委員会に、概ね案１でよいのではないかという旨を伝えていただきたいと思います。また将来都市像については、第六次計画においても継承するかたちで良いですが、コメントに「当初より緑が減ってきている」といったことを加えていただきたいと思います。

堂本委員	本音としては、緑を残すではなく「緑を取り戻す」だと考えています。ただ、踏襲してきたことにも大きな意味があると思います。
大下議長	以前と比べて減ってきているので、あくまで緑とともにあるという意識を強く持ち、将来的には緑を取り戻すという気持ちで取組といった旨をコメントに書いていただくとありがたいです。
堂本委員	国交省、環境省で、「ネイチャーポジティブ」という、2030 年に向けて自然を回復させ、取り戻していきましょうといった取組があります。そのような時代に来ているので、そうした考えは根底として持っておいてもらいたいです。
大下議長	また、サブタイトルを付けるかどうかという点です。都市像と言いながらいろいろと政策ごとに「～まち」がでてきます。それぞれは非常にわかりやすいのですが、それらを一本化しようとして統合するから、かえってわかりづらくなっています。将来像が多くあり過ぎてわかりません。よって、ここはあくまで「緑にかこまれた健康な文化都市」とし、コメントの中に「緑とともに、そして緑を取り戻す」といったキーワードだけあれば良いと思います。まとめると案 4 がいいのではないかと思います。いかがでしょうか。
各委員	【異議なし】
大下議長	また推計人口は、先ほど説明があったとおり 7 ページの A～ウが重要です。議論をされて質問もありましたので、出た意見を反映していただいたといったかたちで、よろしいでしょうか。基本的に推計方法はこれで進めて、解釈論としてア

	～ウを意識したものを基本構想に謳うかたちにさせていただきます。土地利用は、前回説明のあったとおりにさせていただきます。11 ページ「5 政策の大綱」の構成についてですが、6 つの柱は大きくは変えていません。順番として、市民意識調査のなかで重要度が高いものを前に持ってきました。また「こども」の表記などが変わっています。私は、概ねこれで良いと思います。それから7番目のリーディングプロジェクトは、すでに事業化していることから、削除して6つの柱でいきたいと思います。問題提起しておきたいのは12 ページ、(2)「政策2 安心・安全で住みやすいまち」です。「安心・安全で住みやすいまち」となっていますが、自然と共存することをイメージできるようなタイトルにしていきたいと思います。堂本委員いかがでしょうか。
堂本委員	私も議長と同じ意見です。
大下議長	防犯・防災に引っ張られているような印象があります。例えば、「安心・安全で自然と共存する住みやすいまち」などいかがでしょうか。
堂本委員	自然環境の保全が、資本主義社会の一番の基本だと思っています。そのうえで生活環境などが成り立ちます。自然と共存することで、はじめて住みやすいまち、持続的なまちができることを考えると、前後に入れていただけるとありがたいと思いました。
大下議長	事務局から検討委員会に投げかけていただきたいです。このままだと防犯・防災に偏り過ぎているため、環境のキーワードをもう少し入れていただけるようお願いしたいとお伝えください。

加藤委員	今回人口が初めて減少局面に入るという転換期になると思いますが、議長がおっしゃったように人口減に対する施策をつくっていかないといけないと感じました。これからは、ある程度落ち着いてきた中で、自然環境もこれまでの何十年かと違う方向が示されるのではないかとすることに期待したいです。そういったメッセージが込められると良いかと思っています。
大下議長	全てにおいて、既にある政策、道路や施設等、新しくつくる必要はなくなり、どう維持するかといった話にシフトしていくと思います。こういった視点を、策定するうえでの柱として捉えていただきたいと思います。多分、それらが「持続可能」という言葉に表されていると思いますが、「持続可能」だと少し堅いイメージになってしまうので、「つくるではなく使いこなす」などの言葉で優しく、みんながわかる表現で決めていただければと思います。先ほども申し上げたように、これで決定ではないです。本日の意見を、庁内検討員会にフィードバックして、次回第3回に原案として出てきます。それに対して我々は、妥当なのか、適切なのかといった回答を申し上げることとなりますので、引き続きよろしくお願いします。 本日の議事は全て終了しましたので、事務局にお返しいたします。 4 その他 【事務局から連絡事項を説明】 御質問などあればお願いします。 【質問なし】
高橋主席主幹	
各委員	

福島課長	5 閉会 長時間に渡る御審議ありがとうございました。以上をもちまして第2回北本市総合振興計画審議会を閉会いたします。
------	--